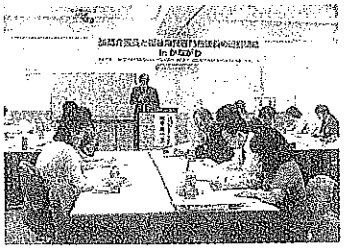
ふくせん

# ヘルパーと合同研修会

## 福祉用具事故防止へ



全国福祉用具専門相談員協会（山下一平会長）は14日、ヘルパーと福祉用具専門相談員の合同研修会（写真）を開催した。事例を基にしたグループワークをメーンに置いた研修で、両専門職の専門性と情報を生かして在宅での福祉用具事故予防につなげるのが目的だ。普段はケアマネジャーを通して情報連携している両専門職間の業務理解を深めるのも研修の目的のひとつだ。

初の研修会には、ヘルパー25人、福祉用具専門相談員25人が参加した。

カリキュラムは、2時間の講義と4時間の演習で構成。福祉用具の継続的なモニタリングの意義などの講義を受けて、用具ごとの安全確認の方法、事例を基にした事故防止策を検討するグループワークを実施する内容だ。

同日の午後に行われた事例検討は、「脳卒中で半身麻痺のため車いすと介護ベッドが必要な利用者」が題材。ヘルパーと専門相談員を交えたグループに分かれ、事例で示されたケアプラン、訪問介護計画と福祉用具の個別援助計画を基に、適切な用具の支援を行い、事故を未然に防ぐための情報を共有するにはどのようにすればよいのかを検討し合った。

研修会は5カ所で開催予定。「来年度以降も全国で実施していける体制を整えたい」と事務局では話している。

シルバー新報 2011年(平成23年)11月18日(7面)